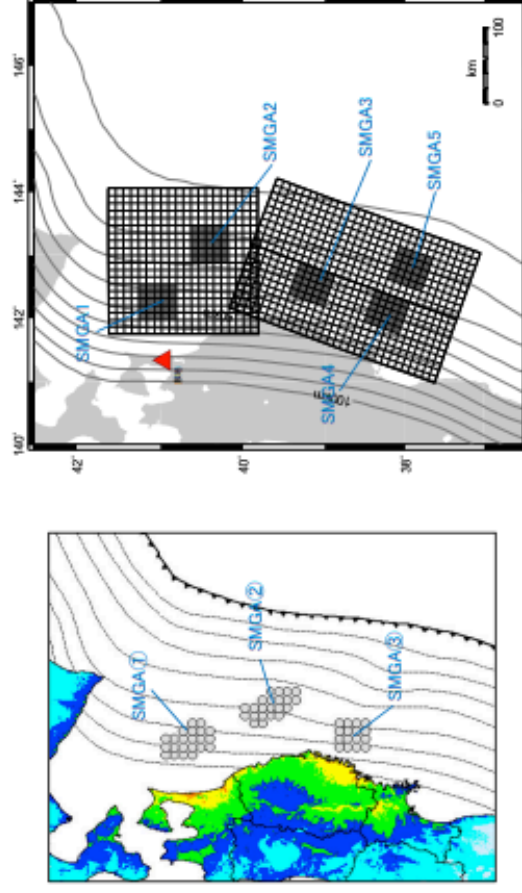


## ②「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデルの検討について(概要報告)」(内閣府(2020))の地震動評価への影響について

- 敷地に近く、影響が大きいと考えられる検討用地震のSMGA1と日本海溝モデルのSMGA①を比較すると、基本ケースでは概ね同じ位置に同程度の面積を想定している。
- また、応力降下量、短周期レベルともに、検討用地震のSMGA1の方が日本海溝モデルのSMGA①よりも大きな値である。



内閣府(2020)の日本海溝モデルと検討用地震の断層パラメータの比較

敷地に近いSMGAの諸元		検討用地震 SMGA1	内閣府(2020) SMGA①
地震モーメント	Nm	2.0E+21	1.8E+21
面積	Km <sup>2</sup>	2500	2746.6
応力降下量	MPa	34.5	30.0
短周期レベル	Nm/s <sup>2</sup>	1.86E+20	1.70E+20

内閣府(2020)の日本海溝モデル(左)と検討用地震(右)の比較

- 以上より、内閣府(2020)の知見を踏まえても、当社の地震動評価への影響はないと評価した。